

1-3 対象事業が実施されるべき区域

事業計画区域：山梨県大月市笹子町白野 1152-23 他
対象事業の実施場所は、図 1-3-1 に示すとおりである。



図 1-3-1 位置図

1-4 対象事業の目的及び内容

1-4-1 事業の目的

目的：間伐材等由来の木質燃料による発電、電気の供給を目的とした事業

計画地の選定理由：大月市は国道 20 号、中央自動車道が通っており山梨県中央部、東京都、神奈川県、埼玉県の一部へのアクセスが良いため燃料集積に有利である。また、大月市の 87%は森林であり、未利用バイオマスである間伐材利用も視野に入れ選定した。

1-4-2 事業の内容

(1) 事業の所在地

山梨県大月市笹子町白野地区

位置図 図 1-3-1 に示すとおりである。

概況図 図 1-4-1 に示すとおりである。

土地地用詳細図 図 1-4-2 に示すとおりである。

(2) 事業内容

本事業の事業計画に基づく関連施設の設置に際しては、補正評価書において得られた知見を積極的に活用し、関連施設がより環境に配慮したものとなるようにする。

1) 事業概要

街路樹や果実の剪定枝、林地残材、間伐材等生木由来の生木屑チップを燃料とした汽力発電所である。

2) 土地利用

土地利用は図 1-4-2 に、土地利用面積は表 1-4-1 に示すとおりである。事業所内の緑地緩衝帯に植林・植栽を行い、樹木・草を増やすことによって生態系及び景観・風景への影響の低減を目指す。植栽の種類は図 1-2-1 緑地緩衝帯図に示した。植林において補正評価書では高木落葉広葉樹のナツツバキであったが、間知ブロック擁壁のセットバックにより防音擁壁を 7.54 m にしたこと夏期の外気の熱がこもりやすくなるため周辺地域の植生を考慮し、熱に弱いナツツバキに替え熱に強い常緑広葉樹のシラカシにした。

表 1-4-1 土地利用面積

項目	面積(m ²)	
	現況	工事後
山林	12,425.0	2,332.3
原野(雑草、灌木類)	2,603.2	327.1
宅地(建物及び付随部分※)	4,246.8	16,615.6
合計(発電所の敷地面積)	19,275.0	19,275.0

注釈) ※：道路や駐車場部分も含む。

3) 造成

造成は、図 1-4-3～4 に示すとおりである。

補正評価書では発生土の一部（11,000m³）が排出土として発生すると推計していたが、間知ブロック擁壁のセットバック工事等により発生土が増加し、最終的には15,996 m³になった。この発生土は、造成地以外で適正に処分することによって、発生土による影響を低減した。

4) 道路計画

生木屑チップ等燃料の運搬車両の搬入出経路図は、図 1-4-5 に示すとおりである。使用道路は国道 20 号であり、施設から東京方面側を主に利用した。

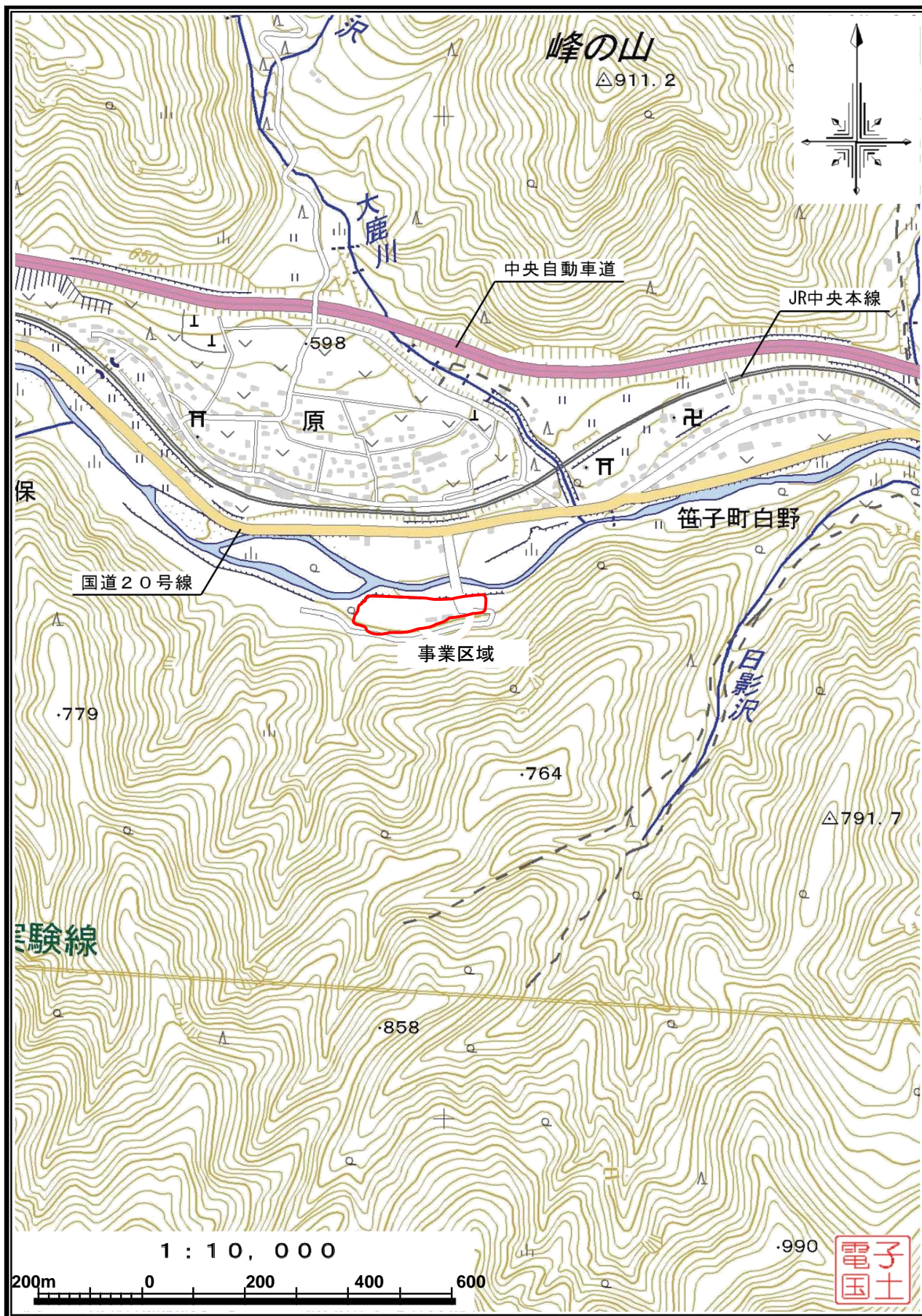


図 1-4-1 概況図

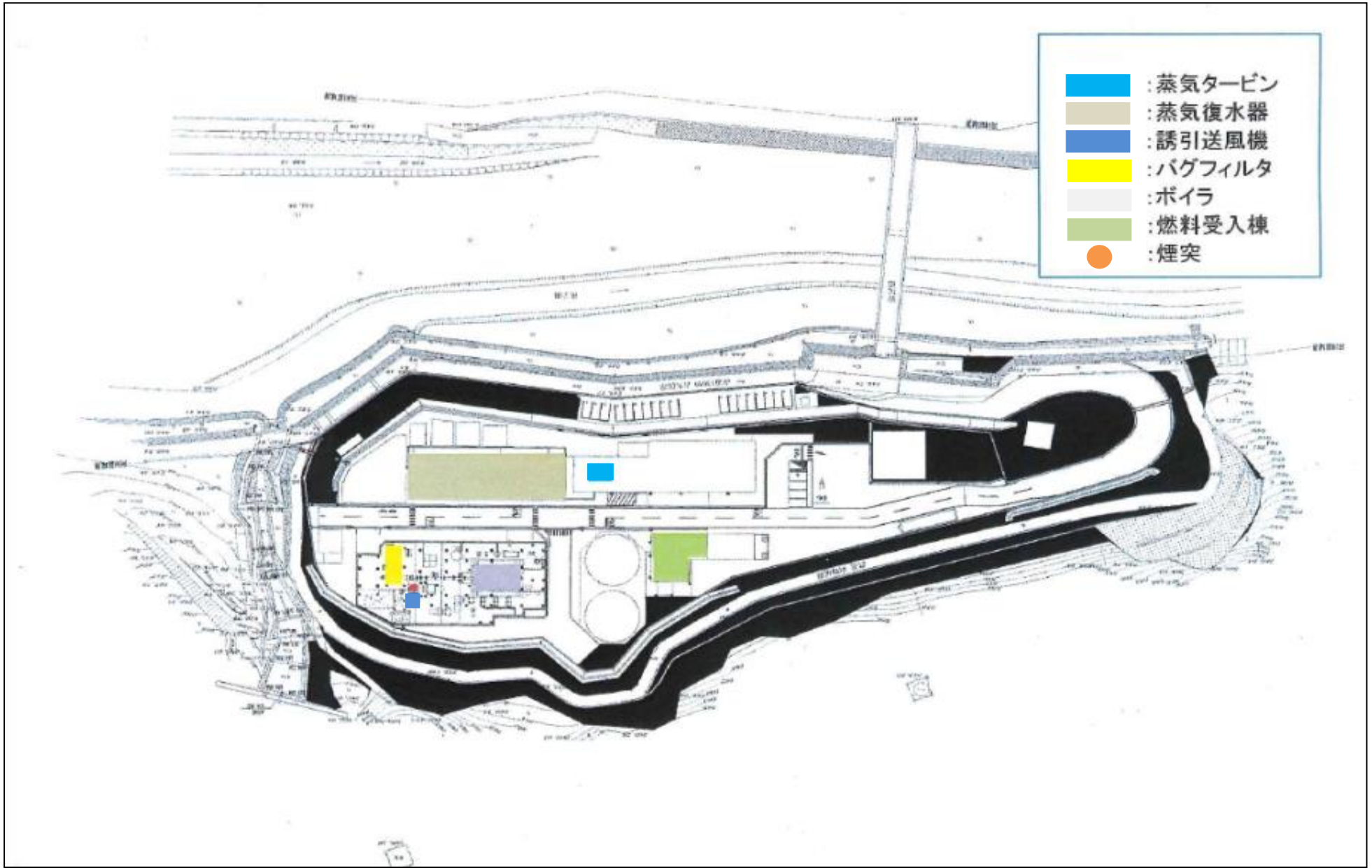


図 1-4-2 土地用計画詳細図

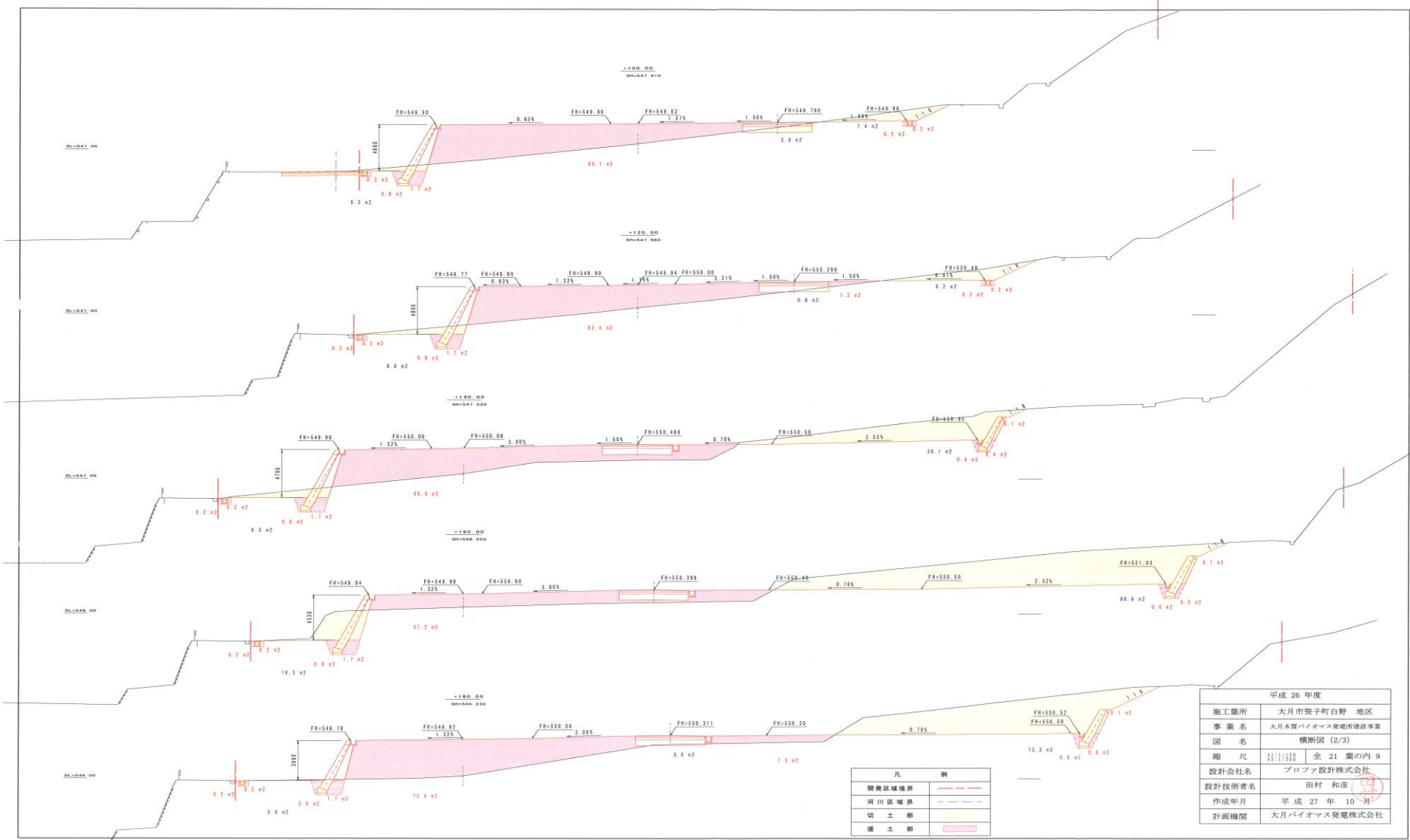
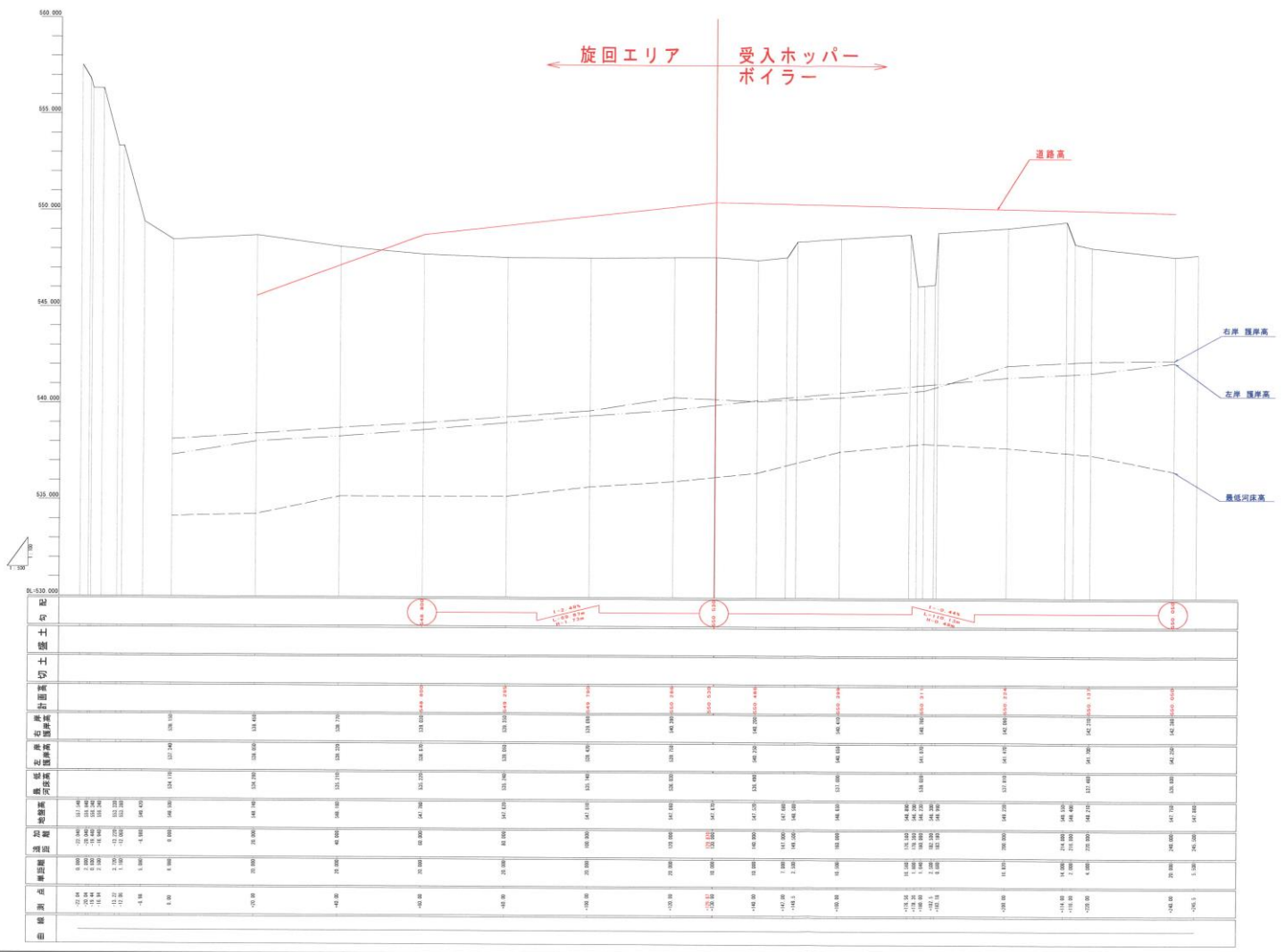


図 1-4-3 事業区域 横断面図



平成 26 年度	
施工箇所	大月市笹子町白野 地区
事業名	大月木質バイオマス発電再建設事業
図名	縦断面
縮尺	全 21 巻の内 11
設計会社名	プロファ設計株式会社
設計技術者名	田村 和彦
作成年月	平成 27 年 10 月
計画機関	大月バイオマス発電株式会社

図 1-4-4 事業区域 縦断面

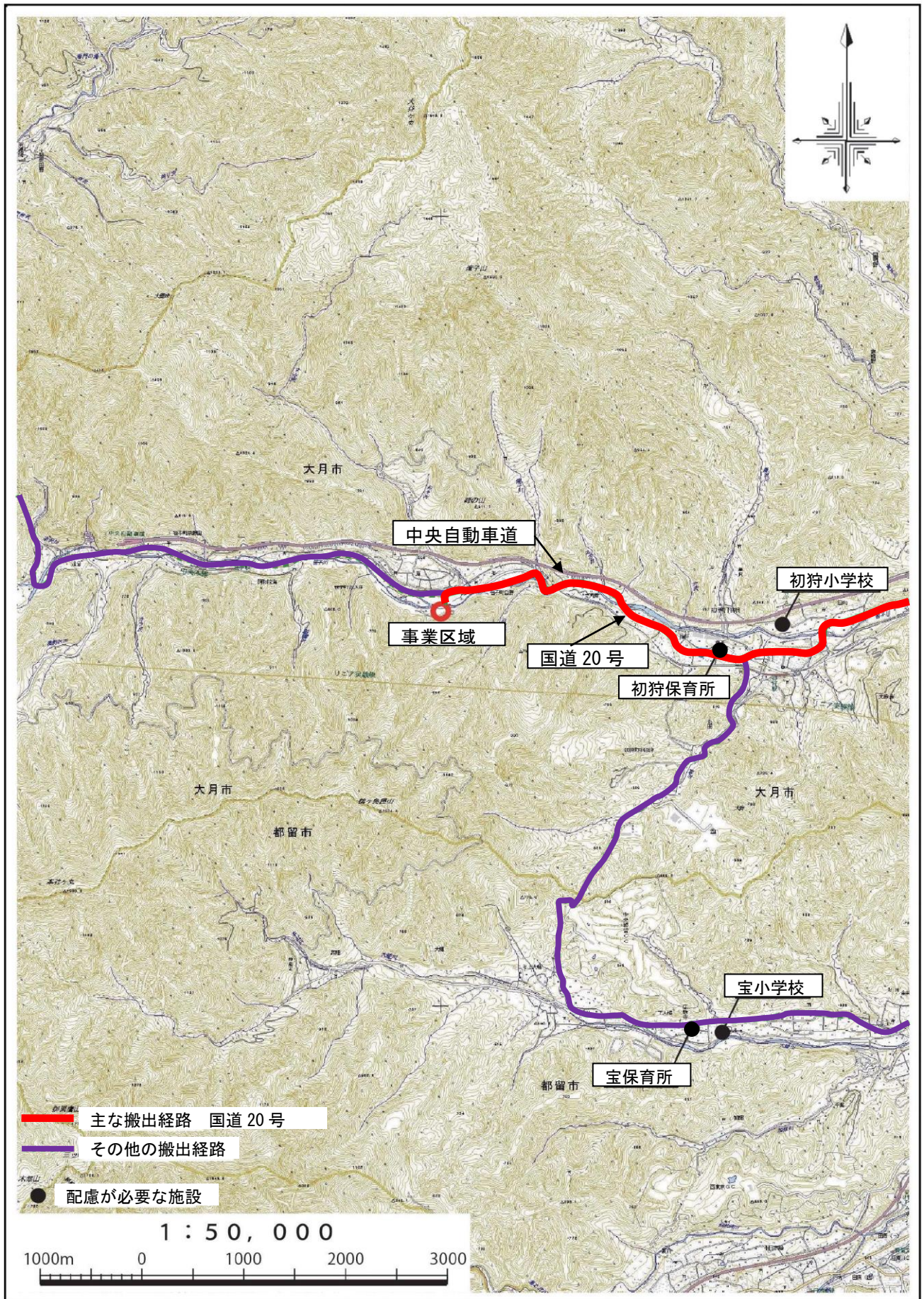


図 1-4-5 搬入出経路図